

手の届く支援を 「生活必需品セット」届ける



みやじま ようこ 議員
宮地 葉子

問 コロナ禍になり3年に近い。感染者も急激に増えてきたが、町は感染者等々へ物資の支援や精神的な対応もしてくれているが、内容を伺う。

答 佐田健康福祉課長
コロナ感染症の陽性者で自宅療養者や濃厚接触者で自宅待機されている方などに食料品や生活に必要な物資「生活必需品セット」を届けている。

また、感染者の方には不安や恐怖心もあり、メンタルケアにも保健師が関わっている。その方を孤立させない、孤独にさせないとの思いをもつて、寄り添うことが大事だとの思いで対応をしている。

問 文科省は、コロナ禍の上に急激な物価高が家計を直撃している状況を考え、コロナ交付金を学校給食費等への活用を要請する通達を全国の自治体へ出している。それを受けて、全国約83%の自治体が給食費への補助を



「生活必需品セット」の一例

しており、四万十市でも来年3月まで給食費を無料にし、家計を応援している。

答 松本町長
交付金はあらゆる選択肢の中から限られた支援金を有効な形で使うため給食費に限らず、優先順位を決めさせて頂きたい。

問 町でも実施を求めているが、どうか。

答 畦地教育長
給食費免除や無償化は経費に対する教育的効果が低い事を理由に、コロナ禍でも実施は困難だ。

しかし今後、食材費高騰で値上げを防ぐために

問 コロナ禍と国際情勢などにより、肥料の高騰等が農業経営を圧迫しているため、肥料高騰への支援事業を行っているが、内容を伺う。

答 渡辺農業振興課長
この事業は、農業経営の安定化を図るのを目的に、肥料等購入費の一部を支援金として交付する。

昨年、昨年購入した肥料で、昨年購入した肥料に補助率20%の額を、30万円を上限に補助する。

問 農業収入50万円以上の方が対象だが、ハードルが高く支援から漏れる農家が少なからず出るが、どう考えるか。

答 渡辺農業振興課長
小規模農家には少しハードルが高いのではないかと議論もしたが、支援目的に沿った即効性の施策を考え、肥料高騰の影響が大きかった方にターゲットをしばらせてもらった。

問 支援がより多くの農家に行き渡るよう、今後、延長や変更などはないか。

答 渡辺農業振興課長
対象者でまだ申請していない方に、個別に当たっていくことも考えている。延長はないが11月に内容は未定だが2次募集をかける予定だ。

【その他の質問】
・防災対策について

農業支援

肥料高騰への補助拡充を 2次募集も予定